

## 第5学年1組 学級活動 学校図書館利用指導案

指導者 千葉市教育研究会学校図書館部会  
千葉市立都小学校 倉持 理恵子

研究主題	豊かな心と確かな学びをはぐくむ学校図書館
------	----------------------

### 1 活動名 新1年生との交流～おはなし会を開こう～

### 2 活動について

千葉市教育研究会学校図書幹部会研究の重点①豊かな心をはぐくむ児童、生徒の読書活動推進に関する研究授業である。本活動は、学級活動の内容〔共通事項〕(2) 日常生活や学習への適応及び健康安全 学校図書館の利用と、(1) 学級や学校の生活づくりウ学校における多様な集団の生活の向上を受けて設定した。

本校は21学級あり学校図書館は絵本のみを配架した「本のはらっぱ」と絵本以外の図書室「本の森」の2カ所に分かれていて読書指導や調べ学習で図書室を十分に利用することができる。しかし、授業時間以外の利用者は、大概同じ顔ぶれで、固定化している。また、学区には、みやこ図書館がある。低学年はおはなし会を聞きに行ったり、保護者と貸し出しを利用したりしている。高学年は児童室で読書を楽しんだり子どもだけで貸し出しを利用したりできるのだが、子どもだけの利用は少ない。このように、読書に親しめる環境にあるが受け身中心で、読書活動への自発的な関わりが希薄に感じられる。

そこで、本活動では絵本の読み聞かせを通じて学区内の保育所との交流を行う。年長児に絵本の楽しさを味わわせるために選書をしたり、対象年齢や特性など相手を意識した読み聞かせの練習をしたりすることで、読書や読み聞かせに対する意欲を高める。また、自分がこれまでに手にしてきた絵本と再会することで成長を感じると共に家族や幼稚園、保育所の先生方などの人々とのふれあいを振り返り、読書をより身近に感じるであろう。本を通じた心の交流を図ることで本を愛する豊かな人間性あふれる子どもたちを育てたい。そして、異年齢の子どもたちとも本の世界を共有できる楽しさを生涯学習につなげたい。

高学年の子どもたちは幼児期からの成長過程における本や活字、言葉との関わり方が希薄であったり、感動経験が少なかったりすると、読書に対する意欲や関心が高まりにくい。だからこそ自由に本を選ぶ時間を確保し、よい本との出会いの場を指導者が用意することでバックアップしていきたい。読み聞かせは、自分が選んだ本を工夫して読むことによって、聞き手がどのように反応をしたり、どのような感想をもったりするかを目の前で実感できる。このような体験をすることで、本の世界がもたらすよさを実感し、幼少期の感動経験を追慕することができるのではないかと考える。

本活動では、担任以外に学校図書館指導員や読み聞かせボランティアの方に活動に加わってもらい選書の仕方や読み聞かせのポイントを教えてもらう。また、1年生担任や保育所の先生方の協力を得て、年長児の好みや行動の特性などを教えてもらい、これらの情報を活用できるようにする。学区内の保育所との交流を行うことで今後も読み聞かせを媒介して自発的に幼児や低学年の児童に関わろうとする姿が期待される。

本活動における読み聞かせの体験を日常の読書指導と関連させ、今後の学校図書館の活用方法の幅を広げたい。児童が選んだ一冊の本を通じて様々な人々と関わっていく中で、豊かな心を育む読書活動のありかたを模索し、研究主題にせまる。

### 3 活動の目標

- 交流する年長児が本の世界を楽しむことができるような選書や読み方の工夫をしようとする。
- 相手を思いやり、自発的に年長児と関わろうとする。

### 4 指導計画（6時間扱い）

時	主な内容と活動	支援○と評価◆
1 2	○活動全体の見通しをもつ。 ○交流活動のために保育所訪問の計画を立てる。 ○保育所を訪問し、交流会を行う。	○保育所の年長児の人数や交流活動の日時を提示する。 ◆自発的に園児に関わろうとしている。
3	○初回の交流での感想や反省を話し合う。 ○保育所の子どもたちを楽しませる「おはなし会」を開く計画を立てる。 ○自由に絵本を読み、読み聞かせに適した本を選ぶ。	○保育所での交流の様子をもとに、グループを決める。 ◆交流する年長児のことを考えて、楽しんでもらえる本や内容を考えようとしている。
国語 朝の 時間  休み 時間	○読み聞かせの基本を確かめる。 ○朝の帯時間（8：15～30）や国語科の学習時間を利用して読む練習をする。 ○休み時間「本のはらっぱ」で低学年を対象に読み聞かせの体験をしたり聞き手の反応をみたりする。	○選んだ本が適しているか確かめる。 ○場合によって選んだ絵本を変更して良いことを伝える。 ◆自発的に練習に取り組んでいる。
4 本時	○「おはなし会」に向けて練習したり発表を見合ったりする。 ○学校図書館指導員、ゲストティーチャーにアドバイスをもらう。	○練習の場を用意する。 ◆年長児のことを考えて本を選んだり、本の楽しさが伝わるような工夫をして、読む練習をしようとしたりする。
5	○保育所の年長児を小学校へ招待し、交流活動の中で「おはなし会」を開く。	○練習を生かして読み聞かせをすることができるようにする。 ◆自発的に年長児に関わろうとしている。
6	○交流活動の内容や「おはなし会」の様子を全校や家庭へ紹介したり、図書室に展示したりして、本を通じた感動体験を発信する。  ○交流活動全体をふりかえる。	○低学年への読みきかせの時間、機会を確保する。 ○図書室に読み聞かせに利用した本や当日の様子をまとめて展示する。 ◆すすんで活動の感想や、読書や本に対する気持ちの変容を全体場で発表して伝えようとしている。

## 5 研究の重点との関連

### <読書への興味関心を常に刺激するような読書活動に関する研究>

#### ①異年齢集団との交流読み聞かせ

読み聞かせの対象を学区内の都保育所の年長児とした。就学時健診も近く、年長児は小学校への不安と期待にあふれている。読み手の5年生は来年度、最高学年として新1年生のお世話をすることになる。この時期に交流することで、弟や妹がいない児童にとっては年齢差による興味関心の違いや行動の特性に対する理解が生まれるであろうと考えた。また、小さい子どもだけでなく、学級や学年の友だちに対しても他者理解が深まり、思いやりにあふれる集団を形成できるのではと考える。

#### ②学校図書館指導員や公共図書館との連携

図書委員会の児童以外は読み聞かせの経験が少ない。そこで、学校図書館指導員に読み聞かせの基本を教わる。さらに専門性を生かして手遊びの取り入れ方や選書のポイントなども教えてもらう。これまで、大人に読んでもらうことが中心であった「読み聞かせ」を自分たちが行うことで読み聞かせやおはなし会への興味関心はさらに高まるであろう。また、これまでは受け身であった学校図書館指導員による読み聞かせやブックトークだが、人前での経験を積むことで自分から発信することへの自信につながると考えた。国語科における読書推薦会やブックトークに自発的に取り組むきっかけとしたい。

児童が放課後や休日に自発的に図書館へ出向き、幼児対象の読み聞かせに適した本を教えてもらったり、職員へインタビューしたりといった活動に取り組めるよう学区内のみやこ図書館に連絡し、活動の計画を連絡しておく。

### <児童生徒の主体的な学習の展開を促し、必要なときにいつでも利用できる学校図書館の環境整備の充実に関する研究>

#### ① 絵本の図書館「本のはらっぱ」の利用

本校には、南校舎に読み物や調べ学習用の本を整備した「本の森」と北校舎に絵本を中心とした「本のはらっぱ」がある。教室配置の関係で校舎の両端に位置し、同時に利用することが難しい上、3、4年生からは「本の森」の利用が中心となり、今年度、高学年になった本学級の大半の児童は「本のはらっぱ」へ入室していない。そこで、久々に自由に絵本を読む時間を十分確保し、低学年で慣れ親しんだ絵本との再会を楽しませたい。自らが十分楽しめてこそ、年長児の興味関心や気持ちにそった選書ができるであろう。その際主体的、意欲的に選書を行えるよう季節やテーマでの展示コーナーや1年生に人気の本のランキングなどの工夫を学校図書館指導員と連携しておく。

#### ②読み聞かせの練習の場の確保

「本のはらっぱ」の一画に読み聞かせを行える場所を常時設置する。休み時間や朝の読書の時間を利用して「おはなし会」当日まで読み聞かせの練習を自発的にできるようにする。雨の日は低学年の教室内で読み聞かせを行うことができるよう学級担任にお願いする。

#### ③幼稚園、保育所との連携

地域の幼稚園や交流する都保育所の先生方に年長児が好きなテーマや、興味を持つ本を教えても

らう。リストにして配架したり、ランキングにしてポスター掲示したり、その本を展示したりして主体的に取り組める環境を整える。児童が放課後や土曜日に訪問インタビューの計画を立てた場合、認めていくとともに、あらかじめ趣旨を確認して協力を依頼する。

## 6 本時の指導

### (1) 本時の目標

○来年度入学する年長児に6年生となって関わることを想定して、相手意識をもって選書をしたり、本の楽しさを伝える工夫をしながら、読む練習をしたりする。

### (2) 本時の展開 (4 / 6)

時配	学習活動と内容	○教師の指導・支援 ◆評価	備考・資料
20	<p>1 活動のめあてを確認し、ゲストティーチャーの紹介を聞く。</p>	<p>○学校図書館指導員、ゲストティーチャー（読み聞かせボランティア員）にアドバイスをもらってよいことを伝える。</p> <p>○年長児との交流を思い出させ、おはなし会をイメージさせる。</p>	<p>・本時までに各自が選んだ本のリスト</p>
	<p>保育所の年長さんが安心して楽しめる読み聞かせにしよう。</p>		
20	<p>2 交流のグループごとに活動場所へ移動し、工夫したことを伝えてからお互いの読み聞かせを聞き合う。</p> <p>〈活動場所〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本のはらっぱ 4グループ</li> <li>・ミーティングルーム 2グループ</li> <li>・生活科室 4グループ</li> </ul> <p>・保育所での交流や保育所の先生へのインタビューで分かったことをもとに自分が担当することになった年長児を思い浮かべながら一人ずつ発表をする。</p> <p>・絵本を見せながら読み聞かせを実際に行う。</p> <p>・聞き手と読み手を分担して行う。</p> <p>〈選書の理由〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇ちゃんは高い場所が好きなので「100かいだてのいえ」を選びま</li> </ul>	<p>○この本を選んだ理由や年長児のためにどんな工夫をするのかを伝えてから読むことを確認する。聞く側も気づいたことをアドバイスするよう促す。</p> <p>○活動場所は、人数や声の大きさを配慮して3つの教室に分ける。ミニカーペットや低いテーブルでグループごとのコーナーを作る。</p> <p>○本時は、指導者が掌握しやすくするために、6年教室を使用する。</p> <p>○おはなし会当日の読み聞かせは1人で年長児1人、または2人で年長児1人に対して行う。</p>	<p>・絵本や本</p> <p>・各活動場所にグループの数を用意する。</p> <p>・いす</p> <p>・コーナーをつくるマット</p> <p>・低いテーブル</p>

	<p>した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が小さい頃よく読んでもらったから選びました。</li> </ul> <p>〈考えた工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵を見たい気持ちを大切にしたいので、すぐにページをめくらないで、様子を見て待つてあげたいです。</li> <li>・初めて学校に来るので、隣に座らせたり膝に乗せたりして安心させてあげます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆友だちの読み聞かせ発表を聞き、本を選んだ理由や工夫したところを聞いたり、楽しさをともに味わったりしている。</li> </ul>	
15	<p>3 各自の読み聞かせの中で年長児へ本の楽しさや本に対する思いが伝わる工夫を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この本を選んだ理由や年長児に伝えたいことを中心にして絵本を実際に見せながら話し合う。</li> </ul> <p>〈予想される発言〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この話は元気な〇〇ちゃんが気に入らそうだね。</li> <li>・お話のテーマが〇〇くんに合っている。</li> <li>・読みながら時々聞き手を見ていて安心できた。</li> <li>・挿絵を見せるタイミングが、あった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ゲストティーチャーと行う事前の打ち合わせで子どもたちが選んだ絵本を知らせておく。</li> <li>○ゲストティーチャーからは自信をもつことができるような言葉をかけたり、子どもたちでは気づかない点を具体的に教えたりする。</li> <li>◆相手意識をもって本の楽しさや本への思いが伝わる工夫をグループの友だちと話し合うことができる。</li> </ul>	学習シート
6	<p>4 図書室（本のはらっぱ）へ戻り、活動をふりかえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ゲストティーチャーから総評をもらう。</li> <li>○練習や伝え合いが活かされて変容したグループの例を挙げる。</li> </ul>	
2	<p>5 次時の予告をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○都小学校に年長児を招く交流会で、読み聞かせ（おはなし会）を行うことを確かめる。</li> </ul>	

※グループ内で活動2、3を繰り返す行う。